

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ温		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0191700046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏祭りは温の駐車場でいき、ご家族や地域の方行政の方にも参加していただき、縁日の他、こども太鼓の演奏やスイカ割りやカラオケなどの余興を楽しみました。
秋にはご家族と一緒に壮瞥町へくだもの狩りに出かけ、リンゴやぶどうを採って食べたり、昼食にはジギスカンを食べて楽しんできました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、複数の福祉関連の事業所を有する運営者が、2棟目のグループホームとして開設して3年が経過しています。各ユニットの管理者は、系列の事業所で培ったノウハウを運営に反映しています。グループホームの命名やケア理念は職員全員で検討しており、自分達でホームを作り上げて行こうとの意気込みが感じられます。地域の方々からは野菜を届けて頂いたり、ボランティアで芸能や蕎麦打ちの披露があり、また、ホームを訪れる小・中・高校生との触れ合いもあり、利用者の生活に潤いを与えています。職員は、利用者の目を見て穏やかな言葉かけを心掛け、一日一回は職員も利用者も笑顔になれる場面作りに努めるなど、ケア理念である笑顔のある穏やかな生活の支援を実践している「グループホーム温」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の時には毎回全員で復唱し、確認して共有実践につなげている。	職員は地域資源としての役割を認識した法人理念を共有し、さらに、職員の意向が反映されたケア理念を策定しています。ホーム内への掲示や会議時には理念を唱和するなど意識付けを図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには地域の方に来てもらい、文化祭、慰問等にも見学している、又、散歩、買い物、通院時には知人とあいさつ会話している。	地域の方とは祭りなど相互の行事で交流があります。利用者は芸能披露、蕎麦打ち等のボランティアの方々や小・中・高校生の来訪を楽しみにしています。町の文化祭には、利用者の共同作品の貼り絵や個々に作成した毛糸の靴下を出展しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域広場、研修会に参加している。面会時、状況と対応の説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族にも参加して頂き、施設内での取組みや状況の報告をしている。畑作り。	系列の事業所2カ所と合同で定期的を開催しています。ホームの現況報告後に質疑応答や各メンバーからの情報提供があり、運営に活かしています。メンバーから菜園の野菜作りの申し出があり、職員は快く受け入れています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉担当者と連絡を取れるようにして、相談、アドバイスいただいている。	法人職員が町の担当窓口に出向いて事故報告等の書類提出や運営に関する相談をしています。法人主催の地域交流広場や町の実地指導、介護認定調査時等に各担当者と情報や意見交換があり、連携は構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は色々な勉強会や研修に参加し、その内容を職員会議で伝えている。玄関は防犯上夜間帯のみ施錠しているが、日中は職員が付き添いながら散歩、外出している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルの整備や、外部研修に参加した職員からの伝達講習等で、身体拘束をしないケアに繋げています。不適切なケアが見られた場合は、管理者はもとより職員間でも注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修会や勉強会に参加し、その内容を会議で報告することで、他の職員も理解をし防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年あまり研修会がなく、学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者、相談員より家族へ説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の会話の中で、家族さんからは面会時、要望や意見を伺っている。	家族には利用者の日常の様子を撮影した写真にコメントを添えた毎月発行の各ユニット便りで伝えています。職員は関わりの中で、利用者や家族の意見や要望の把握に努めています。職員は、家族から利用者の表情が明るくなったとの言葉を励みとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議で意見交換を行っている。管理者は個別にも意見を聞いてくれている。	職員は、年1回実施の代表者と法人職員による個人面談や自己評価時に意見や要望を伝えています。管理者もその都度職員の意見を傾聴し、就業環境の整備や運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年個人面談を行い、個々の意見を聞く機会を設けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させてもらい勉強する機会を与えてもらっている。新しい職員には個別に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域広場、としべつ道場へ参加し交流をもっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話の中で要望を引き出せるよう心掛けている。出来ないことへの支援を継続していく事で信頼してもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の会話の中で不安や要望を伺う。電話での対応も安心していただけるよう会話をする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって優先順位を話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の下ごしらえや茶碗拭き等、家事作業を一緒に行ったり、味付けを教えてもらい「共に」という気持ちでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お祭り、誕生会等には、ご家族にも参加してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知人が来られた時は自由にしてもらっている。	利用者には地元出の家族や友人、知人の面会が頻繁にあります。ユニット間でも知り合いの利用者が行き来しています。家族の協力も得ながら馴染みの美容室や墓参り、桜見物等を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もあり、座る位置、生活環境内で過ごす場所、日々の状態を見極めながら支援している。ユニット間でも行き来している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠方の為、会う機会がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、ユニット会議で検討している。	職員は、利用者ひとり一人の性格や生活歴を把握し、要望の汲み取りに努めています。職員は、利用者の目線で話しかけ、要望が出された時は職員間で解決に向けて検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を見たり、家族さんより聞いたり、日々の会話の中で聞き取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝達ノートを見たり、職員間で情報を伝えたりしている。利用者さんの表情、声のトーン等で把握する様にする。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を基に、ユニット会議で話し合い、ケアプランを作成している。	日常の関わりや介護計画の見直し時に利用者や家族が望む生活への要望を傾聴し、医療関係者の意見を参考に全職員で利用者にとって適切な内容になるよう介護計画を作成しています。介護計画の実践は、日々の記録に赤字で記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をし、職員間で情報共有し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などに気付いた事があれば、出来る限り対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や文化祭、秋祭りなどを見学に出かけたりと、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院や医師にかかっている。月に2回、国保病院から訪問診療を受けている。	受診は、利用者や家族が希望する医療機関に家族の協力を得ながら職員が同行支援しています。協力医を主治医としている利用者には、月2回の往診やの歯科医の往診体制を整え、利用者の健康状態の情報を関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告し、指示してもらい、状況で受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時、情報交換したり、家族とも連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	その都度その都度、家族と相談しながら支援していく。	契約時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を文書で説明し、同意書を得ています。緊急時は医療機関での適切な医療を受けられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力していただき、研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っているが、しっかりと身につけるために更に訓練をする必要がある。	年2回の避難訓練を計画し、消防署や防災業者の指導の下、日中想定訓練を実施しています。今後、地域住民の方々に参加要請をして夜間想定訓練を予定しています。毎月防災点検を行い、防災への意識を高めています。	大雨や停電対策等として、行政、町内会とのさらなる協力体制の構築や、公的避難場所の家族への周知等の取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の声が大きくなりすぎないように気をつけ、視線を合わせたり、言葉使いに気をつけているが、言い回しや例え等、見直す必要がある。	ケア理念に「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を掲げており、職員は、理念に沿ったケアサービスに努めています。不適切な対応が見られた場合は、管理者が職員に正しい接遇のあり方を説明しています。利用者関連の書類は、事務室で適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、自己決定できるようコミュニケーションを取りながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	活動が少ない方には声掛けするようにし、本人のペースに合わせることを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選んでもらったり声掛けしたり、出来ないことはお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの物を聞きメニューに取り入れたり、料理の下ごしらえ、食器拭きなど可能な限り行っている。	菜園で採れた野菜、近所や家族から届けられた野菜を利用するなど、旬の物を取り入れた献立を作成し、利用者と一緒に食事作りを行い食卓を囲んでいます。行事食や外食、出前、テラスでのティータイムなどで食の楽しみに繋げています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、排便の状況等を記録し、個別に食事量、形態を合わせている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前に声掛けし、時々お手伝いしながら行ってもらっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	コミュニケーションを取り、トイレにて個々に関わるようにする。	職員のさり気ない言葉かけや誘導で利用者はトイレで排泄しています。車椅子対応のトイレは失敗の軽減に繋がっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調節、水分量、室内の歩行や運動などを確認しながら工夫している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調や気分に合わせて入浴してもらっている。	同性介助の要望を取り入れ、基本的に週2回の入浴支援を行い、皮膚の状態等をチェックしています。入浴回数や時間帯は利用者の意向を尊重しています。職員の支援の下、利用者全員が浴槽に浸かり、時には歌声が聞かれることもあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室にて、体調に合わせて休んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬の内容は把握できていないが、誤薬のないようダブルチェックし、服薬するまで確認するようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をお手伝いしてもらい、好物を飲んでもらったり、トランプ、パズル、編み物、裁縫等、発揮できるようにしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、ドライブ、桜、海、果物狩り等に、家族さんと一緒に出かけている。	ホーム周辺を散歩したり、テラスで寛いだり、菜園の草取りをしたりと、外気に触れる機会を作っています。ドライブがてら花見や紅葉見物等を楽しみ、秋には家族の参加も得て壮瞥町へ果物狩りに出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好みのおやつを選んでもらったりしている。希望により持っている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキ、年賀状書きのお手伝いや、状況で家族さんと電話している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じさせる飾りだったり、利用者さんと一緒に作った作品などを飾っている。	開設して3年目が経過していますが、ホーム全体に新築の香りが残っています。十分なスペースがある共用空間は、職員や利用者にとって快適な場所になっています。利用者はテーブルでトランプやカルタを楽しんだり、台所で茶碗を拭いたり、小上がりに腰を掛け洗濯物をたたんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持参されている方もいます。	居室にはベットとロッカーが設置されています。テレビや家族の写真、飾り物等が持ち込まれており、利用者にとって安心感のある居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレの表示、手すりを取り付けている。			